



群馬県知事特別講演会

GFLスペシャルセミナー

実施日：2022年12月14日、2023年1月25日
 実施場所：第1回 群馬大学 荒牧キャンパスGB155 / 第2回 群馬県庁32階 NETSUGEN
 リーダー：理工学部電子・機械類1年 増田 靖大 / 共同教育学部数学専攻1年 北澤 実紀
 講演者：群馬県知事 山本 一太氏



1. 概要

県のトップとして指揮を執る群馬県知事山本 一太氏にお話を伺い、これからの活動の糧とする。第1回は荒牧キャンパスにお招きし、ご講演いただいた。第2回は群馬県庁32階NETSUGENにて質疑応答形式で意見交換会を行った。意見交換会では山本知事が提唱している、「群馬県近未来構想」に関して学生から質問を募集し、その内容についての知事の考えを伺った。そのうえでさらに学生から質問をした。

2. 第1回講演会(12/14)について 講演内容の一部

第1回講演会は、県の掲げる未来構想を中心に知事のお考えや学生へのメッセージが届けられた(図1)。

- **フィンランド視察**・・・ヘルシンキ空港では、犬の嗅覚を活用した新型コロナウイルスの陽性検査をしている。的中率は7割(PCR検査7割)で実際の検査と的中率は同じであるという。群馬県ではペットの処分が多いという事実がある。殺処分を減らすための一歩踏み込んだ政策として検査に保護犬を活用することは有効だと考える。
- **新群馬県総合計画の3本柱について**・・・リトリートの聖地、クリエイティブの発信源、レジリエンスの拠点の3つを柱とした2040年のビジョンについての講演を頂いた。
 リトリートの聖地：群馬県が豊富な自然や温泉に恵まれている。
 クリエイティブの発信源：群馬でモノを作りたいと思うような環境づくりをする。
 レジリエンスの拠点：災害データから群馬県が比較的安全だと示されている。
- **仕事への思い**・・・知事の仕事は自身にとって全人生をかけた戦いであり、持っているすべての知識が役に立つ。勉強ができるということは幸せなことであり、教えるよりも勉強がしたいと考えている。



図1 第1回の様子

3. 第2回講演会(1/25)について 質疑応答の一部

第2回講演会はディスカッション形式で行った。近未来構想に関する質問・提案を事前にまとめ、これらを中心に意見交換会を進めた(図3)。

- **プロジェクションマッピングの導入を提案**(図2)
 ご回答：温泉を生かした日本最大のプロジェクションマッピングをGメッセで行うという知事からの提案を頂いた。他にも映画のロケ地の誘致、合成動画を撮影する際に活用する大規模グリーンバックをGメッセに設置するなど、知事自身がエンターテインメント分野に強いことから、マスメディアを活用した群馬県の周知を考えているとの回答があった。
- **レジリエンスの拠点として最終的に目指すことは何かという問いについて**
 ご回答：災害に強いということを企業誘致の大きなセールスポイントとしていきたいという回答があった。
- **人材育成のための高校等への専門学科の設置を提案**
 ご回答：人材育成の一環として、未来構想フォーラムを開催する、行政の方を招く、などを進めている。
- **みなかみ等の県北部の活性化について**
 ご回答：群馬北部の自然豊かな場所こそがリトリートの聖地であると考え、今後も群馬県北部を拠点としてリトリートを盛り上げていきたいと考える。
- **データ分析事業への県の介入を提案**
 ご回答：イノベーションがなぜ日本で起きないのか？それはビッグデータに対する規制が多いからである。群馬県ができることとしては、できる限りそのフィールドを広めていくために規制の見直しと可能な限り緩和をすることであると考える。
- **革新的なアイデアを生み出すコツについて**
 ご回答：知事本人はコンテンツ研究者である。人生に無駄なものはなく、どんな知識も群馬県に繋がられる。自身は20代の友達が多く、若い起業家とも縁がある。
 様々なものに興味を持つと同時に、市長や知事のような代表者になることを勧める。

クリエイティブの発信源

デジタル×メディア×アート×技術

- ・プロジェクションマッピングの導入



- ・群馬大学あるいは県庁を題材として、象徴となるプロジェクションマッピングを作る
- ・テーマパークにイルミネーションを取り入れる

図2 発表用スライド



図3 第2回の様子



図4 集合写真の様子

4. 成果

政治に関わる講演となると、話の内容は堅くなってしまうがちだが、山本知事のご講演には多くの学びがあった。情報や知識の引き出しの多さ、聞く人を退屈させることのない話術など、わかりやすく、引き込まれるようなご講演がとても印象的だった。「ありとあらゆることに興味を持つこと」「人生に無駄はない」という2つの言葉で講演は締めくくられた。山本知事の熱意、そしてそれらの伝え方を学ぶことができ、次の世代のリーダーを担っていく私たちにとって大変有意義な機会であった。

5. 展望・まとめ

2回にわたる講演を通して山本知事の群馬県に対する熱い思いを知ることで、改めて私たち学生の視点から群馬県の活性化について考えることができ、その考えを山本知事に直接発表するという貴重な体験ができたと思う。しかし、第2回の開催形式はこれからもさらに改善点について議論していくべきであると考えている。山本知事から、第2回は「しっかりとディスカッションを行いたい」という要望があったが、学生からの意見と知事の回答のバランスがうまくとれず、今回の反省点となった。学生からは、もっと質問をしたかったという意見も複数見受けられ、限られた時間では有意義に意見交換をするための工夫を見つけていかなければならないと感じた。ここでの学びをこれからの活動に活かしていきたい。